

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかのかの杜 ユニット:すずな		
所在地	仙台市太白区向山2丁目13-8		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切にし、やりたいことや希望を実現できるよう努めています。また、これまでの習慣や、好きなことに着目し、生活の中での楽しみも感じていただけるようにご本人にお聞きしながら取り組んでいます。入居したからでなくなったということがないように、ご本人だけではなくご家族との関わりも大切にしながら、ご本人が安心して過ごすことができる環境を整えております。毎月のユニットミーティングでは、ご本人の言葉などをスタッフ皆で情報共有しており、他ユニットとも連携を図れるようにしています。また、町内会に加入し、地域の催しものや近所の小学校と連携して、お互いのイベント時にお誘いし、お声がけいただくなどして、地域の方が気軽に遊びに来てもらえるように、そして皆さんが楽しく、安心して暮らせる「居心地の良い場所」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療法人社団清山会、理事長は宮城における認知症ケアの先駆者である。事業開始は2016年7月で4年目を迎えた。事業所は仙台市の南部、向山地区にあり2階建の2ユニットで、近くには大学や高校、動物園などがある。法人理念「わたしたちは『自立と共生の権利をを尊ぶナラティブな関わり』を目指します」を基に、「らしく生きる。それぞれのLIFE」を事業所理念とし、「職員の笑顔は利用者の笑顔」を目指し利用者の気持ちに寄りそった支援に努めている。職員の研修制度が充実しており、事業所内の研修・法人全体の研修・外部研修などへの参加の機会が確保されている。キャリアパス制度の実施のための研修計画も策定されている。また、職員が研修に参加しやすいように配慮している。事業所周辺はアパートで、近隣住民との関係作りを課題として更なる取り組みを進めようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはるかの杜 ）「ユニット名 すずな 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人の理念や社是を日々の業務に生かすために、事業所理念「らしく生きる。それぞれのLIFE」を掲げている。各ユニットは事業所理念を基に介護の質の向上を図る目標を立て、半年毎の評価と次への課題の検討を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣への散歩や買い物、認知症カフェなどを通じ地域の方と交流できる機会を設けています。運営推進会議の際は、町内会長、民生委員の方々にもお越しいただきアドバイスを頂戴しています。またイベント時には近隣の小学校やご近所の方にもご協力頂いております。	町内会に加入し地域の防災訓練などへ参加している。地域包括ケア会議に参加し、地域住民や他の事業所職員との協力関係が構築されている。事業所の夏祭りには地域住民や子ども達の参加があり、地域との交流を深めている。地区社協を通じ毎月歌や踊りなどのボランティアも訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所で行っている勉強会について参加いただいた方にもお伝えし、共有を図りアドバイスも行っています。また、地域ケア会議、認知症カフェなどの参加を通じながら地域の方や包括支援センターとの関わりをもち、地域の方へ発信する機会を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。町内会長、民生委員、包括支援センターの方々、ご家族に参加いただき、状況の報告を行い助言をいただいたりします。また、内容についてはミーティングを通じスタッフ間で共有を図っています。	奇数月に家族、町内会長、民生委員、地域包括職員が参加し開催している。運営状況を報告し、保安上屋間の施錠も必要ではとの質問を受け、施錠をしない理由と対応について説明するなど、意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの方に参加いただき、事業所の活動の報告をしたり、アドバイスを頂戴しています。また、介護事故、苦情などについて適宜、報告しております。	介護保険制度や生活保護の手続きの相談、事故発生時の報告など連絡を密にとっている。日常的には地域包括支援センターと連携し、情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしない勉強会を計画的に行っています。また夜間防犯以外の施錠はせずドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	職員は身体拘束をしない取り組みや虐待防止についての勉強会を年間教育計画を立て実施している。日々の取り組みでは自己点検シートを利用しグレーゾーンの検討も行っている。離床センサーは必要に応じ家族の了解を得て設置している。玄関の施錠は防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修への積極的な参加を声掛けし、成年後見制度について学ぶ機会を設けています。参加できなかったスタッフにはミーティングを通じて伝達しています。また、入居者さんを担当している後見人さんとの関わりも大切にしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項と一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	家族の面会が多く、利用者の状態報告や質問・意見を受ける機会にもしている。家族アンケートを年1回実施し、全家族の意向も把握に努め業務改善に役立てている。「はるかのかの杜新聞」など写真付き便りも全家族に配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	全体会議、ユニットミーティング、カンファレンスなどを定期に開催し、職員の意見を反映させている。今年度から利用者も加わった、職場環境の改善の検討の場を持ち、職員アンケートも行い細かな意見も集約している。資格取得など人材育成の支援も行っている。ミーティングの日中開催の検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また法人内の育成部門がを設け、新人、中堅、臨時、専門職などそれぞれの年間研修計画があり、勤務時間内で参加できるように工夫をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ある地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただけるように面会時間などは設けていません。夜に面会に来ていただくことも可能です。また、こまめに日々の様子や受診時の報告を行っています。入居間もない頃に、ご利用者の奥様がボランティアとしてお越しになり、一緒に過ごしていただいたりもしていました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。その方の馴染みの場所に行くイベントを実施しています。	日常的には事業所周辺の散歩や食材の買い出しと一緒にいる。昔馴染みの友達との繋がりや家族と一緒に出かけるためのサポートも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の所へ遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりと、関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	朝の検温時など、一対一になった時に意向把握に努め大事な時間としている。職員によって感じ方や受け止め方が違うこともあり、常に職員間の情報共有を行っている。意向を表せない人には、表情や仕草を見ながら本人の思いを類推し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方もすぐに馴染めるように生活歴の把握を行っています。また他の方もすぐにうちとけるようにスタッフが間に入り環境作りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの会話や全体の様子を観察し、その方が望む生活ができるようミーティング時に情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話しあい、実践、改善を行っています。	利用者のモニタリングやアセスメント結果、家族の意見、医師の助言を受けカンファレンスを行い次のプランの検討を行っている。長期目標6ヶ月・短期目標は3ヶ月で見直している。介護計画は家族の面会時などに説明し、同意を得ている。遠方の人には郵送し、電話などで説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の中で情報共有し実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。ご本人の希望をご家族に話して一緒に行ったりもしています。最近では温泉に出かけたりもしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材購入のために、入居者さんと共に近隣のスーパーに定期的に外出しております。その他認知症カフェに月に1回参加しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族からの希望により、受診の付き添いをしたり往診の利用をしています。また、昔からのかかりつけ医がある方は、そのまま受診を継続し医療との連携を図っています。	利用者の多くが、かかりつけ医は往診医で訪問診療を受けている。専門医への受診は基本、家族付き添いだ。職員が同行する場合もあり受診結果は家族に報告し情報共有している。職員が同行できない場合は、家族に利用者の状態についての情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスももらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院やかかりつけ医は事前にご家族から伺い、緊急時にスムーズに対応できるように努めています。受診時にも病院関係者と情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームにおける看取りの指針をお伝えすると共に、ご本人、ご家族の想いを反映した看取り計画を作成し、医師、看護師など他職種連携を図りながら適宜、本人の希望に沿った支援をチームで実践しています。	入居時に利用者とその家族に「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し同意を得ている。看取りを医師・看護師とも連携して行っている。新人職員以外は看取りの経験があり、看取り後、携わった職員は振り返りを行い、事業所としてグリーフケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の勉強会の中で緊急時対応や事故発生時の対応を行っています。また、勉強会以外のミーティングの中でも振り返りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会で行っている防災訓練に参加したり、事業所の中でも避難訓練を定期的に行っています。	3ヶ月毎に避難訓練を実施している。今後2ヶ月毎の実施を予定している。備蓄は3～4日分在庫している。避難訓練では、近隣の住民の協力が得られる関係作りを更に進めたいと考えている。	ホーム周辺はアパートのため、アパートの入居者との関係作りを進める取り組みについて検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の中で、不適切ケアの勉強会を行い、お声かけの工夫や羞恥心を損ねないような言葉で接しています。また、スタッフ間での関係性を築いています。	呼び名は本人の希望で呼んでいる。職員は声かけの仕方など利用者への尊厳に気配りをした取り組みを行っている。法人全体でも個人の尊厳とプライバシーの研修を実施している。年1回、職員アンケートも実施し職場改善検討の資料としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方らしく生活をして頂くためにやりたいことを伺ったり、ご本人が決められるような選択を働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わり中で、ご本人の思いや意向が確認できるような声かけや会話を大切にしております。また、言葉に出来ない方の思いをくみ取れるように表情や仕草、これまでの生活歴などを把握しながら希望に沿えるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に確認しながら支援しております。選ぶことが難しかったり、言葉にできない方へは事前にご家族から好きな恰好や色などを伺いながら、おしゃれができるよう配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いの把握や、話の中で出た食べ物を献立に反映しています。また食事の支度から片付けまでを一緒に行っています。	利用者の希望も取り入れて、職員が献立を作成し調理も行っている。利用者の摂食状態に合わせた提供をしている。職員は利用者の見守りも兼ねて一緒に食事をし、食後の片付けなどは利用者も行っている。法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量に関しては個人記録や身体状況管理表に記録し、把握に努めております。また、状況に応じ、医師、管理栄養士や言語聴覚士など専門職と連携を図りながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、口腔ケアのお声かけや介助、状態の観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の原因を追究し、日々の記録やご本人の状況を把握しながら不快なく過ごせるよう声かけのタイミングやパットの有無や大きさなど工夫を図っています。	排泄パターンを把握し声かけをするなど、利用者それぞれに合わせ取り組んでいる。下着、パッドやリハパンなど、それぞれの状態を見ながら利用している。ポータブルトイレを使用することもある。便秘対策は看護師や医師と相談しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状がある方には下剤に頼るのではなく、散歩や体操など体を動かす機会をもっといただいています。また、自家製のヨーグルトを提供したり、食事面での工夫を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそった入浴を心掛け、希望があれば、夜も入浴していただいています。朝、昼、夕関係なく快適に入浴していただけるよう努め、あまりお好きでない方は時間やスタッフを変えてお声かけしています。	週2～3回、利用者の希望に合わせて行っている。入浴時間も希望に合わせて、午後の時間帯での入浴もできる。湯は都度替え、入浴剤の使用など、楽しめるように工夫している。入浴拒否の時は、声かけの仕方や職員を替えるなど無理強ぜずに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその時々意向を確認しながら安心して気持ちよく休めるよう環境面(ベッド、寝具、照明、空調)など配慮を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、適宜、確認ができるよう努めております。また、定期的に勉強会を実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味や得意なこと、好きなことやご家族からの情報を基に、現在、ご本人のやりたいこと、興味があること、できることを把握しながらアプローチしております。ハーモニカがお好きで、演奏してくださる方もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段のドライブや買い物に加え、ご本人の希望に沿った外出イベントを定期的開催しております。外出先の方々にも協力を頂いております。	事業所全体の外出は利用者の希望やアンケートなども参考に、季節毎に計画を立て出かけている。野球観戦やコンサートなどの希望も叶えられるよう取り組んでいる。日常的に散歩や買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫でお預かりしていることをお伝えしたり、不安な方には、確認して頂いております。外出時は、お土産などご本人が購入ができるようお金をお渡ししております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来所が困難な他県の方と話したいときに気軽に電話できたり、昔なじみの方に会える様面会時間の規制は行っておりません。仕事の都合で深夜になってしまうご家族でも会えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好きな音楽やテレビの音量や、温度、湿度に配慮を心掛けています。また共用部分での四季を大切にしたい設え作りを皆さんと一緒に作成しています。	建物は1階・2階とも同じ間取りで、リビング兼ダイニングは南に面して明るい。オープンキッチンで調理しながら利用者の見守りもしやすい造りで、季節を感じさせる手作りの飾り物や写真、見当識に配慮された手作りのカレンダーも貼られている。空調、温・湿度管理は職員が点検管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士の相性や安心できる場所などご本人に確認しながら席の配置を行っております。また、一人でくつろげるような空間、ソファの配置なども工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを活かすためにご家族の協力のもとで揃えたり、ご本人の希望に沿ったものを一緒に準備し、危険がないような空間作りを行っています。これまで大事にされていたカメラや本、楽器などをしつらえている方もいらっしゃいます。	ベッド・エアコン・洗面台・押入れが備え付けられ、トイレが付いている部屋もある。居室のドアには手作りの花が飾られており、一人ひとり馴染の物や仏壇、家族の写真などを持ち込んでいる。利用者が手作りした物が飾られたり、心地よい空間作りが利用者と職員で一緒に行なわれている。加湿器も備え温・湿度管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具など配置、物の置き場所、高さなど自立した生活ができるよう配慮しております。またトイレの場所など目で見て把握できるよう工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかのかの杜 ユニット:はぎ		
所在地	仙台市太白区向山2丁目13-8		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切にし、やりたいことや希望を実現できるよう努めています。また、これまでの習慣や、好きなことに着目し、生活の中での楽しみも感じていただけるようにご本人にお聞きしながら取り組んでいます。入居したからでなくなったということがないように、ご本人だけではなくご家族との関わりも大切にしながら、ご本人が安心して過ごすことができる環境を整えております。毎月のユニットミーティングでは、ご本人の言葉などをスタッフ皆で情報共有しており、他ユニットとも連携を図れるようにしています。また、町内会に加入し、地域の催しものや近所の小学校と連携して、お互いのイベント時にお誘いし、お声がけいただくなどして、地域の方が気軽に遊びに来てもらえるように、そして皆さんが楽しく、安心して暮らせる「居心地の良い場所」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療法人社団清山会、理事長は宮城における認知症ケアの先駆者である。事業開始は2016年7月で4年目を迎えた。事業所は仙台市の南部、向山地区にあり2階建の2ユニットで、近くには大学や高校、動物園などがある。法人理念「わたしたちは『自立と共生の権利をを尊ぶナラティブな関わり』を目指します」を基に、「らしく生きる。それぞれのLIFE」を事業所理念とし、「職員の笑顔は利用者の笑顔」を目指し利用者の気持ちに寄りそった支援に努めている。職員の研修制度が充実しており、事業所内の研修・法人全体の研修・外部研修などへの参加の機会が確保されている。キャリアパス制度の実施のための研修計画も策定されている。また、職員が研修に参加しやすいように配慮している。事業所周辺はアパートで、近隣住民との関係作りを課題として更なる取り組みを進めようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHはるかの杜 ）「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々実践しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人の理念や社是を日々の業務に生かすために、事業所理念「らしく生きる。それぞれのLIFE」を掲げている。各ユニットは事業所理念を基に介護の質の向上を図る目標を立て、半年毎の評価と次への課題の検討を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣への散歩や買い物、認知症カフェなどを通じ地域の方と交流できる機会を設けています。運営推進会議の際は、町内会長、民生委員の方々にもお越しいただきアドバイスを頂戴しています。またイベント時には近隣の小学校やご近所の方にもご協力頂いております。	町内会に加入し地域の防災訓練などへ参加している。地域包括ケア会議に参加し、地域住民や他の事業所職員との協力関係が構築されている。事業所の夏祭りには地域住民や子ども達の参加があり、地域との交流を深めている。地区社協を通じ毎月歌や踊りなどのボランティアも訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所で行っている勉強会について参加いただいた方にもお伝えし、共有を図りアドバイスも行っています。また、地域ケア会議、認知症カフェなどの参加を通じながら地域の方や包括支援センターとの関わりをもち、地域の方へ発信する機会を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。町内会長、民生委員、包括支援センターの方々、ご家族に参加いただき、状況の報告を行い助言をいただいたりします。また、内容についてはミーティングを通じスタッフ間で共有を図っています。	奇数月に家族、町内会長、民生委員、地域包括職員が参加し開催している。運営状況を報告し、保安上昼間の施錠も必要ではとの質問を受け、施錠をしない理由と対応について説明するなど、意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの方に参加いただき、事業所の活動の報告をしたり、アドバイスを頂戴しています。また、介護事故、苦情などについて適宜、報告しております。	介護保険制度や生活保護の手続きの相談、事故発生時の報告など連絡を密にとっている。日常的には地域包括支援センターと連携し、情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしない勉強会を計画的に行っています。また夜間防犯以外の施錠はせずドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	職員は身体拘束をしない取り組みや虐待防止についての勉強会を年間教育計画を立て実施している。日々の取り組みでは自己点検シートを利用しグレーゾーンの検討も行っている。離床センサーは必要に応じ家族の了解を得て設置している。玄関の施錠は防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修への積極的な参加を声掛けし、成年後見制度について学ぶ機会を設けています。参加できなかったスタッフにはミーティングを通じて伝達しています。また、入居者さんを担当している後見人さんとの関わりも大切にしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に答えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	家族の面会が多く、利用者の状態報告や質問・意見を受ける機会にもしている。家族アンケートを年1回実施し、全家族の意向も把握に努め業務改善に役立っている。「はるかのかの杜新聞」など写真付き便りも全家族に配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	全体会議、ユニットミーティング、カンファレンスなどを定期に開催し、職員の意見を反映させている。今年度から利用者も加わった、職場環境の改善の検討の場を持ち、職員アンケートも行い細かな意見も集約している。資格取得など人材育成の支援も行っている。ミーティングの日中開催の検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また法人内の育成部門がを設け、新人、中堅、臨時、専門職などそれぞれの年間研修計画があり、勤務時間内で参加できるように工夫をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ある地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただけるように面会時間などは設けていません。仕事の都合で夜遅く面会に来ていただくことも行っています。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。その方の馴染みの場所に行くイベントを実施しています。	日常的には事業所周辺の散歩や食材の買い出しと一緒にいる。昔馴染みの友達との繋がりや家族と一緒に出かけるためのサポートも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の所へ遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりと、関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	朝の検温時など、一対一になった時に意向把握に努め大事な時間としている。職員によって感じ方や受け止め方が違うこともあり、常に職員間の情報共有を行っている。意向を表せない人には、表情や仕草を見ながら本人の思いを類推し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方もすぐに馴染めるように生活歴の把握を行っています。また他の方もすぐにうちとけるようにスタッフが間に入り環境作りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの会話や全体の様子を観察し、その方が望む生活ができるようミーティング時に情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	利用者のモニタリングやアセスメント結果、家族の意見、医師の助言を受けカンファレンスを行い次のプランの検討を行っている。長期目標6ヶ月・短期目標は3ヶ月で見直している。介護計画は家族の面会時などに説明し、同意を得ている。遠方の人には郵送し、電話などで説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の中で情報共有し実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。ご本人の希望をご家族に話して一緒に行ったりもしています。コンサートに出かけたりもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材購入のために、入居者さんと共に近隣のスーパーに定期的に外出しております。その他認知症カフェに月に1回参加しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族からの希望により、受診の付き添いをしたり往診の利用をしています。また、昔からのかかりつけ医がある方は、そのまま受診を継続し医療との連携を図っています。	利用者の多くが、かかりつけ医は往診医で訪問診療を受けている。専門医への受診は基本、家族付き添いだ、職員が同行する場合もあり受診結果は家族に報告し情報共有している。職員が同行できない場合は、家族に利用者の状態についての情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院やかかりつけ医は事前にご家族から伺い、緊急時にスムーズに対応できるように努めています。受診時にも病院関係者と情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームにおける看取りの指針をお伝えすると共に、ご本人、ご家族の想いを反映した看取り計画を作成し、医師、看護師など他職種連携を図りながら適宜、本人の希望に沿った支援をチームで実践しています。	入居時に利用者とその家族に「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し同意を得ている。看取りを医師・看護師とも連携して行っている。新人職員以外は看取りの経験があり、看取り後、携わった職員は振り返りを行い、事業所としてグリーンケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の勉強会の中で緊急時対応や事故発生時の対応を行っています。また、勉強会以外のミーティングの中でも振り返りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会で行っている防災訓練に参加したり、事業所の中でも避難訓練を定期的に行っています。	3ヶ月毎に避難訓練を実施している。今後2ヶ月毎の実施を予定している。備蓄は3～4日分在庫している。避難訓練では、近隣の住民の協力が得られる関係作りを更に進めたいと考えている。	ホーム周辺はアパートのため、アパートの入居者との関係作りを進める取り組みについて検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の中で、不適切ケアの勉強会を行い、お声かけの工夫や羞恥心を損ねないような言葉で接しています。また、スタッフ間での関係性を築いています。	呼び名は本人の希望で呼んでいる。職員は声かけの仕方など利用者への尊厳に気配りをした取り組みを行っている。法人全体でも個人の尊厳とプライバシーの研修を実施している。年1回、職員アンケートも実施し職場改善検討の資料としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方らしく生活をして頂くためにやりたいことを伺ったり、ご本人が決められるような選択を働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わり中で、ご本人の思いや意向が確認できるような声かけや会話を大切にしております。また、言葉に出来ない方の思いをくみ取れるように表情や仕草、これまでの生活歴などを把握しながら希望に沿えるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが好きな方がいらっしゃるので、ご本人と一緒に楽しみながら洋服を選んだりしています。選ぶことが難しかったり、言葉にできない方へは事前にご家族から好きな恰好や色などを伺いながら、おしゃれができるよう配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いの把握や、話の中で出た食べ物を献立に反映しています。また食事の支度から片付けまでを一緒に行っています。	利用者の希望も取り入れて、職員が献立を作成し調理も行っている。利用者の摂食状態に合わせた提供をしている。職員は利用者の見守りも兼ねて一緒に食事をし、食後の片付けなどは利用者も行っている。法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量に関しては個人記録や身体状況管理表に記録し、把握に努めております。また、状況に応じ、医師、管理栄養士や言語聴覚士など専門職と連携を図りながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、口腔ケアのお声かけや介助、状態の観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の原因を追究し、日々の記録やご本人の状況を把握しながら不快なく過ごせるよう声かけのタイミングやパットの有無や大きさなど工夫を図っています。	排泄パターンを把握し声かけをするなど、利用者それぞれに合わせて取り組んでいる。下着、パッドやリハパンなど、それぞれの状態を見ながら利用している。ポータブルトイレを使用することもある。便秘対策は看護師や医師と相談しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状がある方には下剤に頼るのではなく、散歩や体操など体を動かす機会をもつていただいています。また、自家製のヨーグルトを提供したり、食事面での工夫を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそった入浴を心掛けています。朝、昼、夕関係なく快適に入浴していただけるよう努めています。あまりお好きでない方は時間やスタッフを変えてお声かけしています。	週2～3回、利用者の希望に合わせて行っている。入浴時間も希望に合わせて、午後の時間帯での入浴もできる。湯は都度替え、入浴剤の使用など、楽しめるように工夫している。入浴拒否の時は、声かけの仕方や職員を替えるなど無理強せず工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその時々意向を確認しながら安心して気持ちよく休めるよう環境面(ベッド、寝具、照明、空調)など配慮を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、適宜、確認ができるよう努めております。また、定期的に勉強会を実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味や得意なこと、好きなことやご家族からの情報を基に、現在、ご本人のやりたいこと、興味があること、できることを把握しながらアプローチしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段のドライブや買い物に加え、ご本人の希望に沿った外出イベントを定期的開催しております。外出先の方々にも協力を頂いております。	事業所全体の外出は利用者の希望やアンケートなども参考に、季節毎に計画を立て出かけている。野球観戦やコンサートなどの希望も叶えられるよう取り組んでいる。日常的に散歩や買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫でお預かりしていることをお伝えしたり、不安な方には、確認して頂いております。外出時は、お土産などご本人が購入ができるようお金をお渡ししております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来所が困難な他県の方と話したいときに気軽に電話できたり、昔なじみの方に会える様面会時間の規制は行っておりません。仕事の都合で深夜になってしまうご家族でも会えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好きな音楽やテレビの音量や、温度、湿度に配慮を心掛けています。また共用部分での四季を大切に設え作りを皆さんと一緒に作成しています。	建物は1階・2階とも同じ間取りで、リビング兼ダイニングは南に面して明るい。オープンキッチンで調理しながら利用者の見守りもしやすい造りで、季節を感じさせる手作りの飾り物や写真、見当識に配慮された手作りのカレンダーも貼られている。空調、温・湿度管理は職員が点検管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士の相性や安心できる場所などご本人に確認しながら席の配置を行っております。また、一人でくつろげるような空間、ソファの配置なども工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを活かすためにご家族の協力のもとで揃えたり、ご本人の希望に沿ったものを一緒に準備し、危険がないような空間作りを行っています。居室にお仏壇を置いていらっしゃる方もいます。	ベッド・エアコン・洗面台・押入れが備え付けられ、トイレが付いている部屋もある。居室のドアには手作りの花が飾られており、一人ひとり馴染の物や仏壇、家族の写真などを持ち込んでいる。利用者が手作りした物が飾られたり、心地よい空間作りが利用者と職員で一緒に行なわれている。加湿器も備え温・湿度管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具など配置、物の置き場所、高さなど自立した生活ができるよう配慮しております。またトイレの場所など目で見て把握できるよう工夫しております。		